

氏名	広 畑 登
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 181 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	胃癌の内視鏡学的並びに病理組織学的研究 第1編早期胃癌の内視鏡と癌の深部浸潤度について 第2編胃の粘膜像について
論 文 審 査 委 員	教授 小坂 淳夫    教授 山本 道夫    教授 平木 潔

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

早期胃癌症例の内視鏡像及び内視鏡像と癌の深部浸潤度について検討した。降起型及び表面陥凹型では早期胃癌の内視鏡所見の読影の指標となるものを認めたが、陥凹型では早期胃癌に特異な内視鏡所見を認めなかった。レリーフの中絶、辺縁粘膜の凹凸不整、胃角の硬化は癌の深部浸潤度と相関を有したが、後2者の所見は、陥凹型では相関を認めなかった。

胃癌胃の粘膜について、細胞浸潤、腸上皮化生、分裂指数、粘膜層と腺層の厚さ及びその比について検討した。細胞浸潤、腸上皮化生は、胃癌では他疾患より高度であった。分裂指数、粘膜層と腺層の厚さ及びその比は胃癌と他疾患との差はなかった。胃癌胃では、固有胃腺の分裂指数は幽門腺領域で高く、病巣近接部で最低であり、化生腺の分裂指数は癌病巣が胃底腺領域にあるものが高い値を示した。腺層の厚さは進行癌及び癌病巣が胃底腺領域にあるものが大きい値であり、腺層の粘膜層に対する比は幽門腺領域が小さい値を示し、病巣近接部が最低であった。

岡山医学会雑誌第78巻第1号（昭和41年1月31日）に掲載予定

## 論文審査の結果の要旨

広畑登提出の「胃癌の内視鏡学的並びに病理組織学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

胃内視鏡検査とくにガストロカメラ検査による早期胃癌の発見が多数報告され、その内視鏡学的特長が記載されているが、進行癌あるいは非癌性疾患との鑑別に戸迷いすることが多い。そこで自験例の胃癌の切除例51例のうち早期胃癌14例について他の胃癌および著者の行った他疾患の胃内視鏡所見を対照として内視鏡所見の整理とその所見と癌の深部浸潤度との関係などを詳細に検討し、早期癌の内視鏡による診断規準を新しく設けた。次で胃癌胃の粘膜像を組織学的に切除胃について検討し、胃癌の細胞浸潤、腸上皮化生などは相対的に胃癌において強いが、固有胃線の分裂指数、化生線の分裂指数、粘膜層の厚さ、線層の厚さ、線層の粘膜層に対する比などには特長がなく、これらによる癌発生の要因を探ることは困難であった。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。